

令和2年度 音楽科授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの基礎的、基本的な奏法について、おおむね定着を図ることができた。
- ・発達段階に応じた音符や楽譜などの基礎的、基本的な知識を習得することができた。

(2) 課題

- ・自分の想いや考えを、的確な言葉や演奏で表現することができるように、手立てを考える必要がある。
- ・歌唱の意欲や合奏の意欲を持続させることが難しい状況であるが、児童の興味・関心を引き出すような教材を精選する。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカや打楽器等の基礎的な奏法やタンギングなどの技能をおおむね定着させることができた。 ・身体表現を楽しんで行い、リズム感を身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興表現やリズムづくりでは、自分の思いや意図をもって表現することができた。 ・曲を聴いて感じたことを、言葉で表すことが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びでは、児童の実態に合った選曲(教材選び)を行うことで、拍感が身に付き、楽しく学習に取り組むことができた。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・二部合奏や二部合唱に取り組み、お互いの声や音を聴き合う力が身に付いた。 ・リコーダーの新しい音や奏法の定着を図ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞において、木管楽器・金管楽器それぞれ音色の違いに気付き、思いを言葉で表現することができた。 ・リコーダー、鍵盤ハーモニカ打楽器を使って、合奏のレパートリーが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい曲や新しい奏法への意欲がとても高く、主体的に取り組む姿が見られた。 ・レパートリーカードを使用し、目標達成度を視覚化することで、器楽演奏に意欲的に取り組むことができた。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や記号について学習し、曲想を形作っている要素について理解することができた。 ・グループ活動を通して、鍵盤ハーモニカや打楽器を使った音楽づくりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の雅楽及び世界の音楽について学び、楽器や構成などの要素に注目したり、曲想について思ったことを言葉で表現したりすることができた。 ・オーケストラの楽器について学習し、楽器に対する興味が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・階名唱や音符の長さの違いを理解したことで、簡単な変奏曲を作り、思いをもって演奏することができた。 ・曲の歌詞の意味や情景を感じ取り、表現の工夫に生かした。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 音楽の共通事項である基礎・基本（強弱の違い、拍感、速度の違い）について重点的に教材を精選して指導する。 鍵盤ハーモニカや打楽器の奏法については、基礎的・基本的な段階を踏まえて選曲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の想いや考えを表現する手段を広げ、慣れさせる。（言葉だけでなく、身体表現や図・絵などを使用するなど。） 色々な楽器の音色に注目させ、自分で楽器を選んで音楽づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく音楽に関わる児童を育てるために、常時活動に楽しく踊ったり歌ったりする活動を多く取り入れる。 歌唱や器楽の基礎基本を楽しく学べる教材を精選する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 曲想や楽曲の構造などのかかわりについて、鑑賞曲や歌唱曲を学ぶことを通して理解させる。 リコーダーについては特に4年生ではサミングの奏法を3年生ではソ〜高いレの音を繰り返し習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を増やしたり、自分の考えを発表させたりするなど、授業の中で言語活動の機会を増やしていく。 互いの意見を交換したり、認め合ったりする言語活動を豊かにするための手立てが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで音楽に関わる児童を育てるために、興味・関心を引き出すような教材を精選する。 学習形態を工夫して、友達同士の学び合いを通して、協働して音楽活動をする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の構造や曲想、歌曲の歌詞を味わって理解できるように教材を精選する。 楽曲の表現を豊かにするために、必要な技能を繰り返し学習する時間を確保する。 感染症予防のため、歌唱を行う際は指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と要素を結び付けて考えることができるようにする。（例：「この曲は～な感じだと思います。なぜなら強弱が～なっているからです。」など） 楽曲から感じ取った音楽の要素を、歌唱や器楽等の表現に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に音楽に関わる児童を育てるために、日本や世界の様々な音楽に親しませ、興味・関心を広げる。 音楽の経験を生かして、互いに発表することを通して協働して音楽活動する楽しさを味わわせる。